



第 694 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時： 2023年12月9日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/86139170123?pwd=S1NVN1dTU3llWHZ5S3JRQm5yR0tqZz09>



ミーティング ID：861 3917 0123 パスコード：552702

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	1,000 円	小児科領域講習 1 単位（iii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	* WEB にてご視聴いただく場合、聴講後に視聴者ログ、視聴時間などの情報共有をいただきますことをご了解お願いいたします。



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 694 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 東京慈恵会医科大学 伊藤 伶司》

一般演題 (1) 14:00 - 14:30 座長 久保田 淳 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)

1) 外科的動脈管切離術後に左反回神経不全麻痺をきたした乳児例

○大塚 真理子、秋谷 梓、赤塚 祐介、佐藤 恵也、佐藤 浩之、加護 祐久、井福 真友美、
田中 登、福永 英生、稀代 雅彦、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

6 か月乳児。4 か月時にはじめて動脈管開存症と診断された。両親が外科的閉鎖を希望したため、外科的治療を目的に当院へ紹介された。動脈管切離術後 2 日目より哺乳時のむせこみと嘔声が出現し、喉頭鏡検査で左声帯不全麻痺と診断した。一時は全経管栄養を要したが、1 か月で軽快し退院した。早産児以外に対する動脈管切離術であっても反回神経麻痺は合併しうるため、その適応は慎重であるべきと考えられた。

2) 耳鼻咽喉科術後に出血源不明のくも膜下出血と診断された 1 例

○佐竹 俊哉¹⁾、森口 駿¹⁾、向山 祐理¹⁾、滝沢 文彦¹⁾、小川 敦¹⁾、小川 哲史¹⁾、磯島 豪¹⁾、
有澤 慶²⁾

(¹⁾ 国家公務員共済組合連合会虎の門病院小児科、²⁾ 同 脳神経外科)

4 歳女児。口蓋扁桃摘出術とアデノイド切除術を行った。手術当日に嘔吐と頭痛を認め、翌日に項部硬直が出現し当院へ転院した。腰椎穿刺で血性髄液、単純 CT 検査で環椎前面、第 4 脳室および側脳室三角部に出血を認めた。頭痛や嘔吐の症状、MRI 所見も追加して周術期の出血と推察した。頭部血管造影 CT 検査で異常血管や解離はなく、濃グリセリン投与で軽快した。術後脳出血の報告は乏しいが、脳血管障害も術後の頭痛の一因となりうる。

3) 新生児期に複合型下垂体機能低下症を呈し中隔視神経形成異常症の診断に至った 1 例

○樗木 幹久¹⁾、家村 綾正¹⁾、高澤 啓¹⁾、大森 多恵³⁾、打田 優美²⁾、九島 令子²⁾、鹿島田 健一¹⁾、
森尾 友宏¹⁾

(¹⁾ 東京医科歯科大学病院小児科、²⁾ 東京都立墨東病院新生児科、³⁾ 同 小児科)

5 か月乳児。生直後の低血糖と哺乳障害を契機に複合型下垂体機能低下症と診断し、副腎・甲状腺ホルモン補充療法を開始した。頭部 MRI 検査で下垂体形成異常、眼底検査で視神経乳頭萎縮を認め、現時点で追視不能、光刺激反応低下を認めた。中隔視神経形成異常症は透明中隔欠損、視神経低形成および下垂体機能低下を主徴とするが、3 徴を満たす例は 3 割程度で、早期からの眼科的予後を考慮したフォローアップ体制整備が重要である。

一般演題 (2) 14:30 - 14:50 座長 田嶋 朝子 (埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科)

4) 特発性思春期早発症に対して LH-RH アナログ投与中に Basedow 病を発症した 1 例

○藤田 由見、森多 明日香、大川 佑花、鈴木 令奈、大庭 梓、籾賀 由梨香、武政 洋一、
久保田 淳、清原 美佳、松岡 諒、木下 美沙子、齋藤 亮太、堀向 健太、高島 典子

(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科)

10 歳女児。思春期早発症に対して LH-RH アナログ投与中に、1 か月前から発熱を繰り返すため受診した。頻脈およびびまん性甲状腺腫大を認め、血液検査で FT3 と FT4 との高値、TSH 低値および TRAb と TSAb が陽性で、Basedow 病と診断した。LH-RH アナログを終了し、抗甲状腺薬の投与で甲状腺機能の改善を認めた。先行する思春期早発症に Basedow 病を合併する例は稀であり、文献的考察を加え報告する。

5) 過多月経により頻回輸血を要した多嚢胞性卵巣症候群の症例

○唐木 英一¹⁾、橋本 佳亮¹⁾、山川 佳丈¹⁾、二宮 理帆子¹⁾、松井 亮介¹⁾、岡田 創¹⁾、田嶋 華子²⁾、白石 達典³⁾、鈴木 俊治³⁾、伊藤 保彦¹⁾

(¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科、²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院小児科、³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)
11歳女児。初経は9歳で毎月2週程度の過長月経であった。入院3週前より月経開始、1週前より毎時間ナプキンを変えるほど経血量が増加、嘔吐および貧血で立位保持困難となり入院した。Hb 5.4 g/dLまで低下し、頻回に輸血を要した。ホルモン療法で改善なく、最終的に偽閉経療法(GnRH アンタゴニスト)を行い、経血量は減少した。血液検査でLH高値、超音波検査では多嚢胞性卵巣を認め、背景に黄体機能不全と子宮内膜肥厚があったと思われた。

一般演題 (3) 14:50 - 15:20 座長 石川 尊士 (国立成育医療研究センター免疫科)

6) 梅毒スクリーニング検査が陰性の母体から出生した早期先天梅毒の乳児例

○鈴木 絵美子¹⁾、宮野 洋希²⁾、坪谷 ひなの²⁾、相原 久人²⁾、福田 茂孝²⁾、日比生 武蔵²⁾、飯坂 建太²⁾、矢賀部 彩音²⁾、佐藤 望²⁾、服部 万里子²⁾、吉田 登²⁾、宮田 恵理²⁾、鈴木 恭子²⁾、寒竹 正人²⁾、大友 義之²⁾、清水 俊明³⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科、³⁾ 順天堂大学小児科)
3か月乳児。在胎39週、3054g、経陰分娩で出生し養護施設に入所中である。日齢85に小豆大の皮疹が体幹に複数出現した。母体の梅毒スクリーニング検査が産後に陽転化したとの情報を入手し、日齢86に精査目的で入院した。肝逸脱酵素の上昇、梅毒RPR、FTA-ABS IgGおよびIgMの陽性が確認され、先天梅毒と診断した。近年、梅毒患者数が増加しており、特徴的な皮疹を認めた場合には妊娠中の感染も念頭に先天梅毒の鑑別を行うことが重要である。

7) 歯ブラシ外傷後の画像検査で遊離ガスを認めた幼児例

○永田 桜子¹⁾、宮坂 豪¹⁾、伊田 夏海¹⁾、山本 和也¹⁾、松橋 一彦¹⁾、阿部 祥英¹⁾、三好 布季子²⁾、長谷川 真²⁾

(¹⁾ 昭和大学江東豊洲病院こどもセンター、²⁾ 同 放射線診断科)
4歳の男児。歯磨き中に転倒し、歯ブラシで右頬粘膜を刺傷し出血した。翌日から発熱と右頬部腫脹、頬部から頸部にかけての疼痛を主訴に受診し、入院した。開口障害、白血球増多(16600/ μ L)、CRP高値(15.57 mg/dL)を認め、抗菌薬治療を開始した。2週間で症状および膿瘍は改善したが、入院7日目の造影CTで右咽頭間隙に被包化された液体貯留と遊離ガスを認めた。歯ブラシ外傷後の画像検査で遊離ガスを認める事例は少なく、報告する。

8) 共同制作したイラストによるスケジュール表で浣腸拒否を克服した、重度便秘を伴う急性リンパ性白血病のDown症候群の1例

○小池 久貴¹⁾、君塚 優¹⁾、市川 やよい¹⁾、伊藤 淳平¹⁾、山崎 文登¹⁾、嶋田 博之¹⁾、鳴海 覚志¹⁾、杉山 祥基²⁾、熊谷 知子²⁾、前田 悠太郎²⁾、工藤 裕実²⁾、城崎 元宏²⁾、加藤 源俊²⁾、山田 洋平²⁾、藤野 明浩²⁾

(¹⁾ 慶應義塾大学病院 小児科、²⁾ 同 小児外科)
22歳男性。Down症候群と高位鎖肛術後のため小児期より連日の浣腸を要した。急性リンパ性白血病で入院後、環境の変化から浣腸の拒否が続き著明な宿便を認めた。寛解導入療法中に宿便性腸炎に伴うbacterial translocationにより敗血症を発症し、治療を延期・減弱した。以降、共同制作したイラストによるスケジュール表を用いた説明で連日の浣腸が再開でき、良好な排便が得られ、化学療法が継続できた。

感染症だより 15:30 – 15:50 (講演: 15 分 + 質疑応答: 5 分)

講師 高梨 さやか (国立感染症研究所感染症疫学センター)

共催セミナー 15:50 – 16:30 (講演: 40 分)

「小児アトピー性皮膚炎の重症度評価・コントロール判定におけるバイオマーカーの意義」

座長 小林 茂俊 (帝京大学医学部小児科・小児アレルギーセンター)

講師 成田 雅美 (杏林大学医学部小児科学教室)

アトピー性皮膚炎の重症度は皮疹の性状や面積、痒みの程度など臨床症状に基づいて決定される。ただし国際的な評価指標である Eczema Area and Severity Index などは全身の詳細な診察が必要で時間がかかり、評価者のスキルを要する。一方で血清バイオマーカーとして、Thymus and activation-regulated chemokine (TARC) や Squamous cell carcinoma antigen (SCCA) 2 は、診断や重症度評価、コントロール判定の参考になる指標として用いられている。本セミナーでは従来からの血清 IgE 値、抗原特異的 IgE、末梢血好酸球数と比較して、TARC、SCCA2 についてその特徴や意義などについて解説する。

共催：株式会社シノテスト

* * 休 憩 16:30 – 16:40 * *

教育講演 16:40 – 17:45 (講演: 60 分 + 質疑応答: 5 分) 小児科領域講習 1 単位

「先天性心疾患における小児期から成人期への諸問題」

座長 水野 克己 (昭和大学小児科)

講師 高月 晋一 (東邦大学医療センター大森病院小児科)

先天性心疾患を持つ症例が小児期を経て成人期に到達することが当然の時代になったが、遺残病変、チアノーゼ、染色体および遺伝子異常、不整脈、慢性心不全の急性増悪、妊娠出産などの様々な問題が生じる。これら全てを小児科医が管理することが難しいため、移行期医療の重要性が叫ばれているが、実際には多くの診療科で管理を行うことが最も必要である。様々な問題を取り上げ、実際の診療現場でどのような取り組みがなされているかを概説する。

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【日本小児科学会東京都地方会幹事選挙告示について】

次期幹事選挙について、2023年11月7日に地方会ホームページにて選挙告示をしております。立候補受付締切はオンラインにて2024年12月4日（月）17:00 厳守です。詳しくは地方会ホームページをご確認ください。

【年会費オンライン決済システム拡充に関して】

2023年10月2日（月）より現在のクレジットカード決済以外に新たに下記オンライン決済が可能となりました。

■ コンビニ決済（可能なコンビニ：ファミリーマート／ローソン／ミニストップ／セイコーマート／デイリーヤマザキ）

■ 銀行振込

2023年度年会費未納の方は2024年3月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認ください。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2024年1月13日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2024年2月10日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2024年3月9日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☎：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

◆ 年間行事情報 ◆

小児診療初期対応（JPLS）のご案内

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間4回開催します。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習3単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2023年11月25日（土）	日本大学	満員御礼
2023年11月26日（日）	日本大学	満員御礼
2024年2月3日（土）	国立成育医療研究センター	2023年11月26日
2024年2月4日（日）	国立成育医療研究センター	2023年11月26日

申し込み：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

◆ 関連学会の講演情報 ◆

第124回東京小児科医会学術講演会のご案内

開催方法：オンデマンド

取得単位：小児科領域講習2単位

オンデマンド配信期間：令和5年12月2日（土）～令和5年12月17日（日）

視聴申し込み期間：令和5年10月26日（木）～令和5年12月7日（木）

詳細：東京小児科医会ホームページ <https://tokyo-pediatrics.org/>

開催に関する問い合わせ先：編集室なるにあ

E-mail：tpa@narunia.co.jp

電話 03-3818-6450（平日9：00～17：00）